《優秀賞》

「もったいない」で魚を守る

大阪府　大阪府立水都国際中学校　1年　岡野（おかの）　陽一（よういち）

一年前、山奥の自然体験施設を訪れた時の事だ。そこには小川があった。透明で澄んだ水。ザーザーと流れる滝。新鮮で爽やかな匂い。生き生きと群れを成して泳ぐ、たくさんの小魚。元気に跳ぶカエル。とても速いスピードで飛ぶトンボ。このような環境は、雨水が森林に蓄えられ、長い年月を経て濾過される事でできるそうだ。何て美しいのだろうと思うと同時に、本来水というのはここまで透き通っていたのだ、と驚いた。

一方、家から自転車で十分程の大和川は、そうではなかった。ショッピングモールに行くついでに、河原を散歩した時の事である。砂に埋もれているコーラの空き缶。異臭の漂う、あちこちにある煙草。岸に流れ着くビニール袋。風によって少しずつ飛ばされていくキャップの外れたペットボトル。まるでゴミ捨てばのようだ。魚達にとって、このような環境は快くないだろう。自分達の住処が多くの人によって汚されていくのだから。魚の気持ちを想像すると、心が痛んだ。なぜこのような汚染された川になってしまったのだろうか。本来水は清らかで透き通っているはずなのに。ニュース等で度々耳にしていた水質汚染の現状を目の当たりにした。

近年、水質汚染が深刻な問題となっている。例えば、世界経済フォーラムによると、このままだと二〇五〇年には、海にある全てのゴミの量が、魚の量を上回るそうだ。それにより、最も影響を被るのは、魚達だ。海や川が、油や米のとぎ水などの汚れた廃水や、ペットボトルや使い捨て容器などのプラスチックゴミによって汚染されている。これらが原因で、魚達の住処が奪われたり、それらを誤飲して命を落としたりする事が後を絶たない。住処を散々汚された挙句に、それらによって命を落とすのは、魚達が本当に可哀そうだ。

もちろん、このような水質汚染の影響は、私達人間にも返ってくる。例えば、食への影響だ。最近、世界で和食の人気が高まっている。それには魚が欠かせない。もし魚が獲れなくなれば、刺身や焼き魚などが食べられなくなってしまう。加えて、味噌汁等に使われている鰹出汁も失われるだろう。私も秋刀魚の塩焼きやエビの寿司が大好きなのだが、それらのない未来にならないでほしい。

このように、魚は無くてはならない存在だ。アメリカの専門誌によると、二〇四八年に海で魚が獲れなくなる恐れがあるそうだ。魚を守るために、一刻も早く川や海の水質改善に取り組まなければならない。

では、私達にはどのような事ができるだろうか。私は、この問題を解決する為に「もったいない」の精神を持つ事が大切だと考える。今の日本は、戦後に比べると随分豊かになった。その反面、限られた物をできるだけ長く使おうという「もったいない」の精神は薄れてしまった。そのせいだろうか。一回使って捨てるだけの、プラスチック製のスプーンや容器、ペットボトルなどを、当たり前のように使うようになった。けれども、その当たり前が魚達を苦しめている。このような時代だからこそ、「もったいない」の精神が必要なのではないだろうか。例えば、ペットボトルは使い捨てでもったいないので、洗えば繰り返し使える水筒を持って外出する。たったそれだけでも、水質を改善し、魚を守る立派な取り組みである。

このように、「もったいない」の精神があれば、一つの物を大切に長く使おうと思える。世界中全員がその精神を基に、プラスチック削減や汚い廃水を流さないといった事に取り組めば、水質は改善されるだろう。私も米のとぎ水を、ベランダの朝顔の水やりに再利用しようと思う。魚達が、山の中の小川で見たような澄んだ水の中で、生き生きと泳げるようになる事を心から願っている。